



消費税増税をストップさせよう!

安倍首相は10月1日、消費税を来年4月から8%に引き上げると表明しました。新たな国民負担額は8兆円になります。一方、景気を腰折れさせないと大企業中心の法人税減税、復興特別法人税の1年前倒し廃止など6兆円の対策を打ち出しています。消費税増税は昨年、民主党野田政権時、民自公の談合によって決められました。福祉の財源にあてるが大義名分でした。それがどうでしょう。介護も医療も年金も保育も生活保護もすべて悪化するメニューが目白押しです。例えば、介護では要支援者サービスを保険からはずし市町村に移す。医療では70～74歳の窓口2割負担を70歳到達者から実施、来年

度導入予定。年金は10月から3年間で2.5%、1.3兆円削減、その後もマクロ経済スライドで引き下げなど、まさに社会保障制度破壊の暴走です。絶対に許せません。

春から円安による生活用品の値上がりが家計を苦しめてきましたが、10月から食用油や牛乳、小麦粉製品の値上げが発表されています。労働者の年間平均賃金も97年比べ今は70万円も減っています。

こんな状況で消費税増税すれば、くらしも経済も破壊されてしまいます。増税ノーの声を大きく、断乎ストップさせましょう。

内部被ばくを「生き抜く」時代に、わたしたちは

エネルギーと環境の未来を考える市民円卓会議・逗子葉山

2012年6月末、大飯原発の再稼働が決まり、それに反対する直接行動が全国でわき起こりました。エネルギーと環境の未来を考える市民円卓会議・逗子葉山は、その行動に参加した逗子葉山鎌倉の20代から60代の人々の報告会から始まった団体です。

「原発をどうするのか」というテーマを語り合うなか、地域の市民で共に動けるのではないかとという熱い空気を私たちは新たに感じ、共有しました。その後すぐに、エネルギーシフトへ向けた内閣府のパブリックコメント提出の呼びかけや首相官邸デモのポップなチラシを作り、地域に広げました。

私たちの運動は、こんなスタンスを大事にしたいと思っています。もし、世間の大多数の人々が「おかしい」と思いながら一歩踏み出すのに戸惑っていたならば、怖さを煽って腕を無理矢理引っ張るよりも、やさしくて楽しい言葉を囁きながら、肩口をポンと押すほうが動きやすいのではないかと。複雑に絡んで起こる社会現象であっても、大切なことはシンプルだし、できるだけ子どもにもわかる、優しい言葉で伝えようと思っています。

そうして1年が経とうとした頃、ずし平和デーへの参加を呼びかけていただき、イベントを行うことにしました。「平和と脱原発」の共通点とは何でしょう? それは、人のいのちを脅かし、個々人の暮らしを一網に打ち砕くということだと思います。

1945年の夏に日本に落とされたふたつの原子力爆弾による人々の苦しみは、その一瞬から今に到るまで続いて

います。68年間続き、また世代を超える苦しさは「内部被ばく」と呼ばれ、今、福島第一原発事故による放射能汚染へと残念にも受け継がれてしまいました。原爆と原発が一卵性の双子であることをよくよく理解すること、見えない、感じられない内部被ばくの世界をどう生き抜くかを真剣に知り、考え抜くことが私たちには必要です。

8月25日に行ったイベントでは「内部被ばくを生き抜く」というドキュメンタリー映画と監督の鎌仲ひとみ監督にお越しいただきました。内部被ばくの被害は、どうやら関東全域を覆い、逗子葉山でも「保養」による体内の放射線量をリセットすることが必要だということ、汚染水の海への放出により海からの汚染も心配だということ、そして、からだと心を守る最大のプロテクトをし、生き抜くこと、正義と平和のためにがんばることをメッセージとして伝えていただきました。

放射能汚染との戦いは実に長い時間を要します。一方、人間は忘れる存在です。また、忘れようとする存在です。忘れないためには、人がつながるしかない。誰かが主役で責任者などではない、みんながまるく手を取りあつてつながる。そんなつながりを通してできることをやっていきたい。社会を変えるのは、最初は蟻さえ通れない、岩盤にあいた小さな穴だと信じて動いていこうと思います。



『南相馬』被災地支援ボランティア



8月9日から11日まで、葉山後援会と一緒に、橋爪明子市議が南相馬に支援ボランティアに参加しました。

現地の日本共産党ボランティアセンターの常駐者は、

震災後京都から移住し、全国から来るボランティアの受け入れをしています。「地元を根を張って、復興に力を入れたい」と毎日活動されている姿には頭がさがるばかり。



仮設住宅にお住まいの方々に支援物資と、地元議員団ニュースを届けながらお話を伺いました。ご高齢の方が多く、若い方は仕事に出ているとのこと。「家には帰れず、転居のあてもない」「放射能が不安で孫と嫁は嫁の実家に行っている。2重生活の様なので、息子が会いに行くが交通費もばかにならない」など、将来の不安を抱え、必死で暮らしています。

各地を回る中で、立ち入り制限区域の浪江町では、倒壊家屋など解体もされず放置状態。放射能が復興の障害として重くのしかかっています。この街に笑顔が戻るのはいつの事でしょうか。改めて、原発と政府の対応に怒りがこみあげてきました。



浪江町。立ち入り制限区域の為手つかずとなっている



震災時のままの原町駅前駐輪場

ハイキングのお知らせ

季節もよし、みなさん、ハイキングに出かけませんか。大いに楽しんで、親睦を深めてきましょう。下記のとおり、実施します。みなさんのご参加をお待ちしています。

記

行き先：**大船フラワーセンター**
日時：**11月15日(金)**

集合：JR 返子駅表口改札 9時半
入園料：350円、65歳以上100円
(生年月日が分かるもの提示)

見どころ：ダリヤ、バラ、サザンカ、菊花展
車いす・ゲストハウス(うどんそば軽食)あります

YASUYOの

かんたんレシピ⑥

きゅうりのピリ辛漬

きゅうり、ニンニク薄切り少々、サラダ油(ごま油)大2、醤油大2~3、砂糖小1、酢大1、豆板醤小1

- ①きゅうりはざく切りにして塩少々振る。
- ②軽く重しをして(手で揉んでも良い)1時間位おき水気を切る。
- ③フライパンに油をひき、ニンニクと豆板醤を炒め、醤油、砂糖、酢を入れ良く混ぜてたれを作る。
- ④熱したたれをきゅうりにかけ、冷めたら食べられます。

*たれはお好みの分量で、我が家の味をお楽しみください。



私と憲法



わたしは、昭和21年4月に小学校に入学し、いわゆる戦後の民主主義の教育の洗礼を公教育の最初から受けることが出来た幸せな年代だと思っています。

アメリカが朝鮮戦争を始める前までは、日本のそれまでの教育の誤りの反省から、民主主義の何たるかを知らない幼い子どもたちを、自由にすこやかに育てようと、気概を持った先生方から教育を受けることが出来ました。(もちろんその段階ではそれまでの教育がどうであったかなど知るよしもなく、比較することも出来ませんでした。)その時代、世の中は物資もなく食料もとぼしく、大人たちは大変だったでしょうが、川崎市の北部で育ちましたので、何となくゆつたり、おだやかだったような気がします。小学校入学の年、昭和21年11月3日に日本国憲法は公布され、翌年5月3日施行されました。もちろん幼いわたしがそれらの事を知るよしもありませんでしたが、その後わたしたちはこの憲法の精神に則り制定された教育基本法で、まがりなりにもその法律に添った教育を受けながら成長できたことが幸せであったわけです。(少なくとも今より精神的に豊かでした。)

日本国憲法の恩恵を受けながら義務教育時代を過ごせました。

これからも、日本国憲法の恒久平和主義をつらぬき主権在民・基本的人権を守り、生かしていきたいものです。

(U・I)

